

乙 御前母御書

文永一〇年十一月三日 五二歳

なによりも女房のみ^身として、これまで来たりて候ひし事。これまでなが^流され候ひける事は、さる事にて、御心ざしのあら^顯わるべきにやありけん^覺と、ありがたくのみをぼへ候。釈迦如来の御弟子あまた^在をはしゝなかに、十大弟子とて十人ましましゝが、なかに目犍尊者と申せし人は神通第一にて^通をはしき。四天下と申して日月のめぐり給ふところを、かみ^髪すぢ一すぢ^筋きらざるにめぐり給ひき。これはいかなるゆへぞとたづぬれば、せん^先じゃうに千里ありしところ^生をかよいて^通仏法を聴聞せしゆへなり。又天台大師の御弟子に章安と申せし人は、万里をわけて法華經をきかせ給ひき。伝教大師は三千里をすぎて止観をならい、玄奘三蔵は二十万里をゆきて般若經を得給へり。道のと^遠をきに心ざしのあらわるゝにや。かれは皆男子なり、権化の人のしわざなり。今御身は女人なり。ごん^權じち^實はしりがたし。いかなる宿善にてや^知をはすらん。昔、女人はすい^好をと^夫を^徳のびてこそ、或は千里をもたづね、石となり木となり、鳥となり蛇となれる事もあり。

十一月三日

日 蓮花 押

をとごぜんのはゝ

をとごぜんがいかにひと^{成人}ゝなりて候らん。法華經にみやづ^宮かわせ給ふほう^仕こう^奉をば、をとごぜんの御いのちさい^幸わいになり候はん。

いまは法華經をしのばせ給ひて仏にならせ給ふべき女人なり。かへすがへす、ふみ^文ものぐ^物さき^臭者なれども、たびたび申す。又御房たちをもふびん^不にあたらせ給ふとうけ給はる。申すばかりなし。